

## 令和6年度 自己評価計画書 中間評価

石川県立盲学校

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主 担 当	評 価 の 観 点	実 現 状 況 の 達 成 度 判 断 基 準	判 定	分 析 及 び 今 後 の 取 り 組 み
1 授業実践力の向上	他の教員の授業参観や、県教員総合研修センターの授業ビデオ等を活用し、自分の授業に活かす。	教務課 全学部	【努力指標】 他の教員の授業を参観し、授業改善の視点を持ち、自分の授業に活かすことに取り組む。	校内あるいは校外において、他の教員の授業を2回以上参観して授業改善の視点を持ち、自分の授業に活かした教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	D (36%)	他の教員の授業を1回以上参観した教員の割合は72%である。また、他の教員の授業を参観した全ての教員が授業改善の視点を得ることができたと回答している。後期に校内での研究授業を予定しているため、他の教員の授業を参観する機会が増えると考えられる。
2 専門性の向上とセンター的機能の充実	各教員が専門性チェックシートを活用し、個別に目標を立て、視覚障害に関する専門性の向上を目指す。	支援課 全学部 寄宿舎	【成果指標】 教員各自が、チェックシートで自己の専門性を確認し研修等に取り組む。	チェックシートで自己の課題を確認し、研修等に取り組み、専門性が向上したと感じる教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (84%)	各自が選んだ項目で、専門性が向上したと回答した教職員の割合が84%である。オンライン研修や書籍を読むなどの研修が多くあり、理解が広がったことや児童生徒への指導場面に活かせたことから専門性の向上を感じている。後期も同様に取り組むが、別の項目での研修を計画している教員が多い。
3 キャリア教育の推進	キャリア教育全体計画をもとに児童生徒のキャリア発達の課題を把握し、目標や教育内容・方法、各教科の関連等を考慮しながら実践し、キャリア教育の充実を図る。	進路課 全学部	【成果指標】 教職員が、全体計画をもとにキャリア教育の視点を意識した授業や行事を実践した。	全体計画を活用した計画的、組織的なキャリア教育を実践できたと感じる教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B (76%)	B判定ではあるが、キャリア教育のさらなる充実のため、キャリア教育全体計画を新任者研修等で説明し、進学就職についてだけではなく、本校の教育活動全体におけるキャリア教育の意識づけを行い、教職員が共通理解のもと指導に当たることができるようにする。
			【成果指標】 児童生徒が、キャリア発達の課題を把握し、目標を決めて取り組むことで、成長できたと感じる。	キャリア発達の課題を理解し、目標を決めて取り組み、目標を達成した児童生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (83%)	個々の児童生徒で、キャリア教育の課題の理解度は違うが、自分の目標に向かっている姿勢がアンケートで把握できた。個々の児童生徒の目標を教員で共通理解し目標達成のための手立てを示し、成長を促すようにしていけばよい。
			【満足度指標】 保護者が、HPや学級通信、懇談等を通して、キャリア教育全体計画に基づいた教育活動について理解する。	HPや学級通信、懇談等を通して、キャリア教育全体計画に基づいた教育活動について、理解できた保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (84%)	A判定ではあるが、個々の意見の中にもう少し、進路、進学に関する行事の内容や、その時の児童生徒の様子などを知りたいという意見があった。現状のHPや学級通信、懇談の伝える内容を再検討し、後期につなげる必要がある。
	キャリア教育の視点を持って、金生が話し合って寄宿舎の活動や行事を企画する場を設定することで、寄宿舎生活の充実を図る。	寄宿舎	【満足度指標】 舍生が、他者の意見を聞くことができるようになつた、自分の考えを相手に伝えることができるようになったと答えた舍生が	他者の意見を聞くことができるようになった、自分の考えを相手に伝えることができるようになったと答えた舍生が A 4人以上 B 3人 C 2人 D 1人以下	A (5人)	事前に指導員と打ち合わせの時間を設けて自分の意見をまとめておくなど、個々に合わせた支援を行うことで、話し合いの場で意見を聞くこと、考えを伝えることができたと評価した舍生が多かった。今後、いろいろな場面で話し合いの機会を設け、聞く力と伝える力が身につく取り組みを継続していく。
4 校務分掌等の業務改善	業務のデジタル化によって、業務の効率化、ペーパーレス化を推進する。	全学部	【成果指標】 デジタル化、ペーパーレス化、環境整備を意識した業務の遂行を行う。	デジタル化、ペーパーレス化、環境整備を意識して業務を遂行し、効率化につながったと感じる教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B (78%)	78%の教職員が、ICT機器を活用したデータや情報の共有、アンケートの実施等により業務の効率化につながったと回答した。更に効率化を進めるために、会議資料や保護者配付物においてデジタル化やペーパーレス化が可能であるとの意見があった。各部署において、デジタル化、ペーパーレス化を検討し、業務の効率化につながる工夫を行っていく。